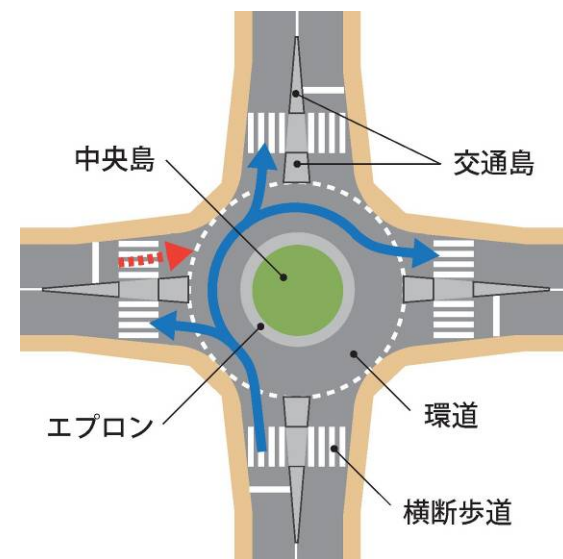
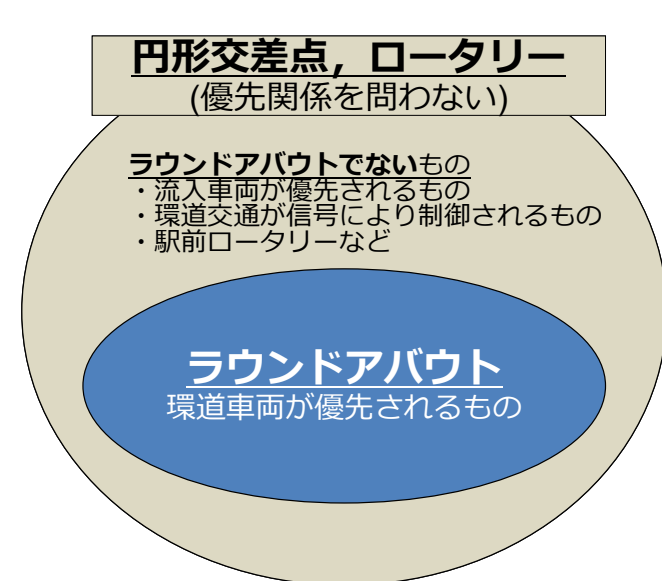


飯田市のラウンドアバウト

ラウンドアバウトとは

「ラウンドアバウト」は、交差点の中央に円形地帯（中央島）が設けられた円形交差点の一種です。車両はこの中央島に沿った環状の道路（環道）を一方方向に通行し、それぞれの道路へ流出します。環道を走行する車両に優先権があることが最大の特徴であり、環道の交通流は信号機や一時停止などにより中断されません。

一般に「ロータリー」は、制御方式によらない円形の道路施設の総称であり、「ラウンドアバウト」とは区別されます。



ラウンドアバウトの特性

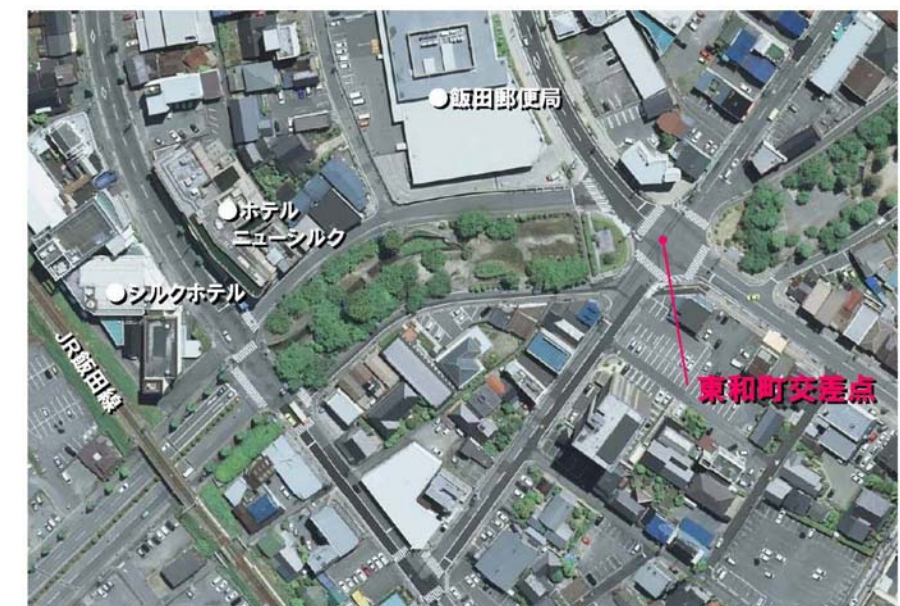
- 安全性** 速度の抑制による効果 ⇒ 重大事故を抑制
- 円滑性** 信号による停止の解消 ⇒ 無駄な待ち時間の解消
多枝交差点の制御も可能
- 環境性** 無駄な待ち時間の解消 ⇒ CO₂の削減
信号制御の電力消費不要
- 経済性** 信号機の設置費・維持管理費等の削減
- 自立性** 災害時や停電時にも自立（自律）性を発揮 ⇒ 災害に強い

● 交差点状況に応じて、交通適用容量が決定される

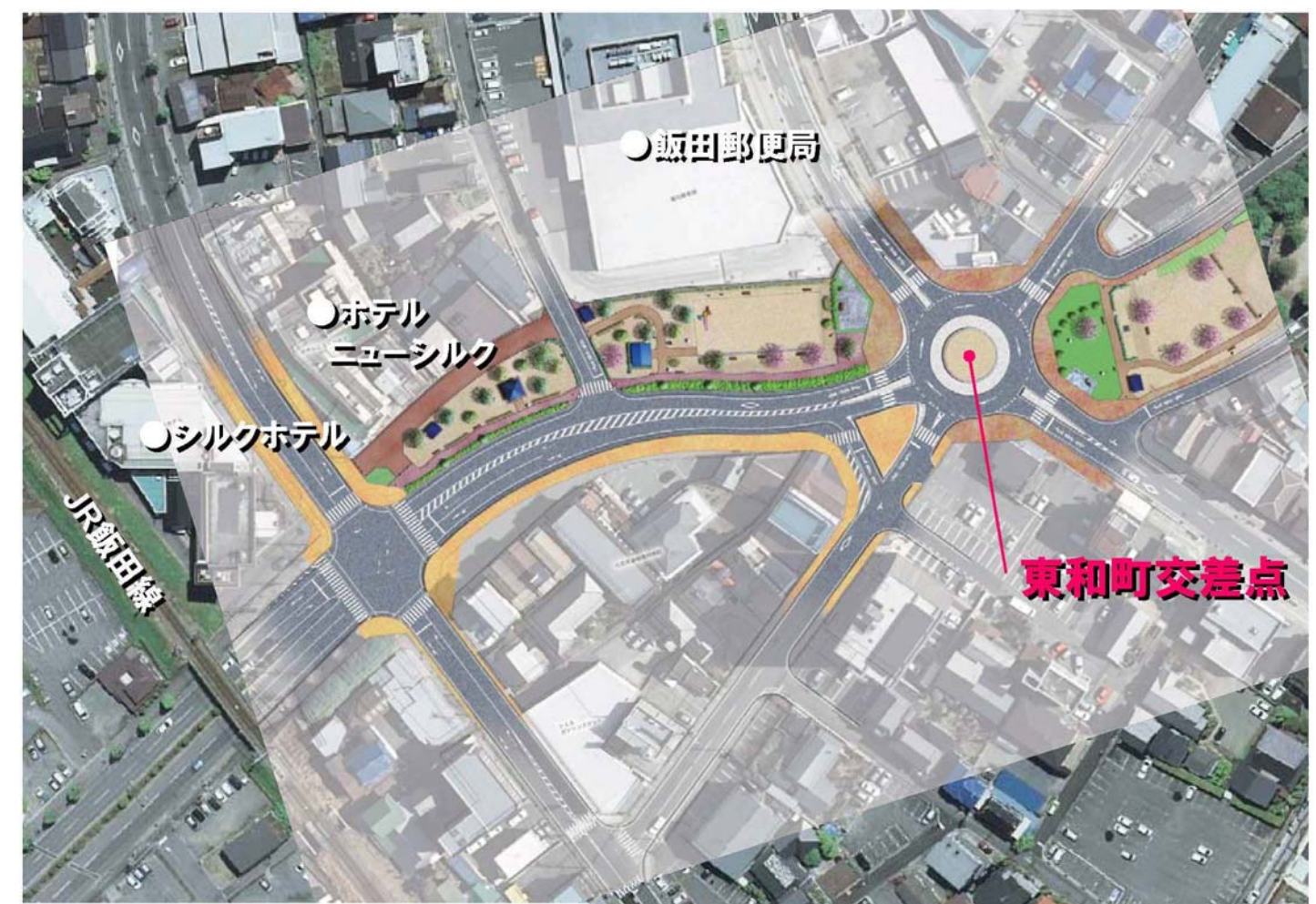
東和町ラウンドアバウト

これまで実施してきた社会実験等により、一定の技術的知見が得られましたので、飯田市で今後実施する交差点整備・改良にあたっては、構造基準に該当する事項等を検証した上で、関係機関と地域の合意が得られた場合においては、安全面・環境面の観点からラウンドアバウト型交差点を採用することとしました。

その第一号として、市内の道路改良に併せて、関連する交差点（東和町交差点）の信号を撤去し、ラウンドアバウト方式を導入しました。



● 現況（H21 撮影）



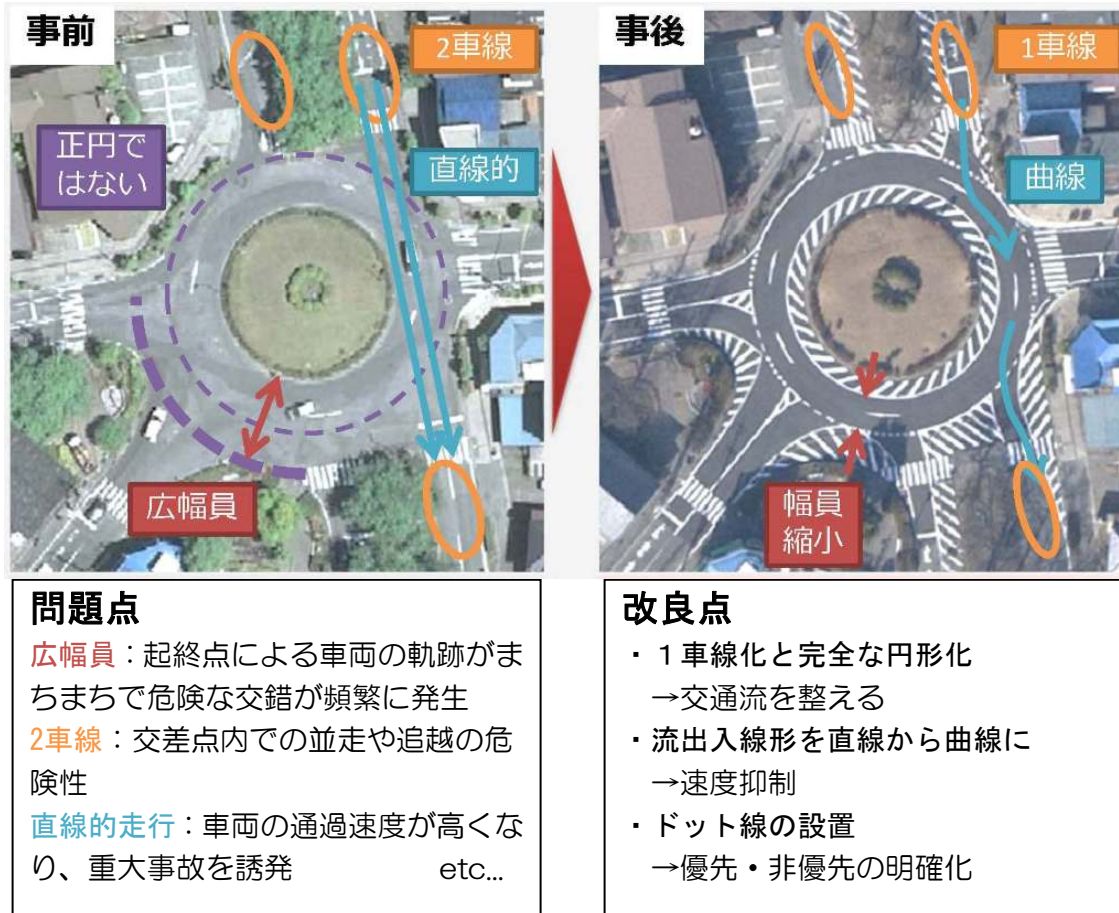
● 整備イメージ

吾妻町ラウンドアバウトにおける社会実験

（公財）国際交通安全学会（プロジェクトリーダー：名古屋大学中村英樹教授）と協働して、吾妻町のラウンドアバウト（通称：吾妻町ロータリー）において、路面標示や各種安全デバイス設置を行い、本格的ラウンドアバウトとしての構造改良効果を実道で実証するための社会実験を実施しました。

【社会実験に取り組む経緯】

- ・ 吾妻町ロータリーの位置する桜並木は、整備されてから半世紀以上が経過し、車両通過による桜への影響が懸念される状況。
- ・ 周辺の道路整備により、桜並木および吾妻町ロータリー周辺の交通需要の変化が予測される状況
- ・ 桜並木を現在の4車線から2車線化へと改良するなど、桜並木のアメニティの向上を目指した再整備の可能性を検討してきたところ。
- ・ 将来、桜並木周辺の整備を検討する上で、今回の社会実験の内容・結果の提供が飯田市にとっても有益であると考え、この社会実験に連携して取り組むこととしました。



吾妻町のラウンドアバウトの成り立ち

戦後間もない昭和22年、飯田市は中心市街地の約8割を焼き尽くす大惨事となりました。この大火からの復興の際に、吾妻町にラウンドアバウト（通称：吾妻町ロータリー）が設置されました。

日本では戦後、GHQの指導のもと全国各地に大型のロータリー交差点が設置されましたが、乗用車の普及とともに交通量が増え、信号機交差点に置き換えられました。現在全国には約100カ所のロータリー交差点が残っていますが、環道の走行が優先されるラウンドアバウトは、吾妻町ロータリーも含め数ヶ所のみとなっています。

ラウンドアバウトの位置



飯田市におけるラウンドアバウトの取り組みの経緯 【H21 より国際交通安全学会（プロジェクトリーダー：名古屋大学中村英樹教授）と連携し、研究を進めてきました】

（H21）東和町交差点の検討

市内の東和町交差点のラウンドアバウト化の検討
→ 地元の合意は得られたが、警察協議の結果、4枝の信号交差点に決定

（H22）吾妻町ロータリー社会実験



（H23）吾妻町ロータリー交差点改良



（H24）

東和町交差点のラウンドアバウト化
（表ページ右へ）